

( 続紙 1 )

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	佐治 史
論文題目	タイの水辺公共空間の商業利用にみる共同性の形成 —ダムヌーンサドゥアック水上マーケットを事例に—		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は、タイの水辺の市場（水上マーケット）の形成過程およびそこで展開する商実践と社会関係を分析することで、水辺の公共空間の利用と管理をめぐる共同性の動態を明らかにする。水辺を誰がどのような権利と責任をもって管理してきたのかを、中部タイ・ラーチャブリー県に位置し、バンコクからの観光客を多く集めるダムヌーンサドゥアック（以下DS）水上マーケットを主たる事例として検討している。そこには、タイにおける水との関わりに根ざした社会的記憶とそれを利用した観光事業や水辺の集落における地域資源管理とが深く関わっている。構造化されにくいとされてきたタイ社会で、関係者の協力ゲームによって共同性が生まれ存続するメカニズムを詳細に分析している。</p> <p>第1章は序章として研究の目的や背景、先行研究を紹介し、本研究の問い、調査方法、論文の構成を提示する。調査の結果、現在タイ国内に水上マーケットが100ヶ所存在することを述べ、それらを類型化したリストを踏まえ、水上マーケットの研究が水辺の集落と水利組織、共同資源管理とタイの村落社会論研究に通じることを指摘する。非定型の水辺集落にあって、人々は空間への独自の認識を有し、それが生活や生業の場面で彼らの行動や社会関係を方向付けている可能性を指摘し、それ故に村単位ではなく、日常的な生活や商取引が展開される場に注目することを提唱する。また水辺の共同資源管理に関しては、村落共同体を基盤としない場でのコモنزの生成を論じた研究は限られており、水上マーケットにおける商業利用と共同性に焦点をあてることで、そのようなコモنزのあり方を提示すると述べる。先行研究としては、タイの村落社会論や、地域振興と観光開発、水利や灌漑組織に関わるもの、そして共同資源管理に関するものをレビューしている。</p> <p>第2章以降は、水辺の所有・利用・管理をめぐる権利主体と公共性の展開を論じる第1部と、そこで展開する商実践と共同性を論じる第2部という二部構成となる。第1部第2章では、国や地方行政、地方自治体の政策における運河や水資源政策の展開を、治水や産業、ダム開発や水運と地域経済文化の振興等について追う。続いてタイ国における観光政策の変遷を追い、その中で水上マーケットを位置づける。そして水上マーケットが特に観光資源化されてきた時期から、政府・企業・国民が協力し合い地域の文化活性化のためにこれを利用してきたことを通時的に分析する。そこで発信されたイメージや価値を具現化する形で水上マーケットが地域住民による地域文化の活性化や地域経済の発展という自発的な取組みの流れと相俟って、全国的に増加し今も存続し続けている事を指摘する。</p> <p>第3章では、DS水上マーケットに目を転じ、地域社会における市場の役割や住民の経済活動の歴史とそれに伴う水上マーケットの変遷を明らかにする。マーケットの持続性の根</p>			

底には地域の生業としての商実践があり、地域内外の人々の働きかけで定期市から観光資源の水上マーケットに変貌したことが重要であった。観光資源化により陸上の市場とうまく差異化し共存して地域住民の生活の糧を得る場、地域経済の重要な柱として機能してきたことを指摘する。

第4章は、水上マーケットとその運河の運営組織について述べる。通常タイの運河は国家の公共財産であり自由使用が原則で、現行法制下では占用が認められる私有の運河は存在しないとされる。しかし本研究の主たる対象であるDS水上マーケットのトンケム運河は、沿岸の民有地の所有者がこれを公共に開いており、その歴史的な由来の故に、このような所有とその権限に基づく運営が認められている。こうしてプライベートな空間の中に、船着き場の社会集団を含む自由使用の公共空間の範囲が広げられてきた。タイ国内のより新しい水上マーケットの事例では、自治体の呼びかけによって共有地で始まったものや、僧侶の呼びかけによって寺院敷地で開始したものもあることを比較として提示する。

第2部第5章では、水上マーケットにて水上や水辺そして陸上で繰り広げられる商実践を詳述し分析する。土産物が中心の陸上店舗の主たる流通経路や売り方、商人同士の関係を論じる。続いて水辺や水上の主たる商実践を行う青果物商人の船主・船子との関係、水上空間の使い分け、権利義務関係や社会関係などを詳細に検討する。

第6章では、水辺の商実践を通じて生み出される利益がその後、売り手同士の社会関係の中で、頼母子講やくじ引きなど、商売とは別の交換形態による共同性を形成する営みを描出し、これを水辺の商実践と社会関係の文脈に位置付ける。商人たちはこれらの活動を通じて、社会関係を築きつつ競い合い、助け合う緩やかな共同性を形成していることを分析する。そして水上マーケットが、生活の糧となる収入源であると共に、良い取引との出会いや商いの競争などに従事する場を提供していることを明らかにしている。

第7章では各章のまとめの後に、中心的議論を提示する。DS水上マーケットでは、村落を基盤としない下からの資源管理のコモンズが生成し、そこに競争と共同の商実践が展開されることで水辺の共同性が形成されていることを明らかにし、それにより水上マーケットという従来のタイ村落社会研究に見られなかった共同性の形成事例を加えたとする。